

平成 30 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アズジェント
 代 表 者 名 代表取締役社長 杉本 隆洋
 (JASDAQ・コード 4288)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 取締役 経営企画本部長 葛城 岳典
 電 話 番 号 03 - 6853 - 7401

第 2 四半期累計期間業績予想と実績の差異に関するお知らせ

平成30年 5 月11日の決算発表時に公表した平成31年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成30年 4 月 1 日～平成30年 9 月30日）の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想と実績の差異

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 円 賤
前回発表予想 (A)	2,000	△50	△50	△50	△13.10
実 績 値 (B)	1,533	△155	△157	△154	△40.41
増 減 額 (B-A)	△467	△105	△107	△104	
増 減 率 (%)	△23.3%	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	2,126	28	25	18	4.89

2. 差異の理由

売上については、プロダクト関連では、前年第 1 四半期まで実施されていた地方自治体におけるセキュリティ対策に代わる大型の需要として、過去に販売したセキュリティ機器のリプレースの取込を見込んでおりましたが、対象システムの統廃合や競合製品との競争激化により、想定よりも需要が下回っております。また、上期に見込んでいた政府系の調達下期にずれ込んだことや、新製品の立上げについては、各種セミナーを開催するなど拡販活動を展開しているものの、顧客が導入を検討するための検証等によるリードタイムが長期化しており、受注開始時期が遅れております。一方、サービス関連では前年度から進めている収益力改善のためのシステム移行を進めておりますが、移行対応等による一時的な効率低下の影響もあり、前年対比では伸ばいたしましたが、プロダクト関連の減少幅をカバーするには至りませんでした。

コストについては、人員体制強化を推進し外部からの経験者 10 名を採用し販管費が増加したことに加え、サービス関連において、前期に実施した収益性を改善し利益転換するための設備投資による旧システムとの人員・運用コストの二重負担が引き続き発生いたしましたが、一方で経費節減を進めたことにより、想定より抑えられる形となりました。また、下期後半からは並行運用が解消されますので、運用コストは減少し収益効率が改善する見込みとなっております。

なお、通期の業績予想について変更はありません。一方で、当事業年度後半に見込んでいた厚労省のセキュリティ対策の受注状況によっては、通期業績に影響を及ぼす可能性が予想されます。今後、過去に販売したセキュリティ機器のリプレースの進捗も含め、受注動向を見極めた上で、修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

以上